

石橋中学校区

【目指す子ども像】

地域とつながり社会に貢献できる子ども

【実践研究課題】「心の教育」

教育活動全体を通じて、居がいのある学級・学校づくりを推進し、児童生徒の自己肯定感を高め、豊かな情操と道徳性を備えた社会に進んでよい行いができる子どもの育成

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

- ・小学校…明るく素直な児童が多い。学習に対する主体性や論理的に考えることなどに課題がある。
- ・中学校…友達の良さを認め、協力して学習に取り組める。自分の考えを論理的に思考し、表現することに課題を抱えている。

【部会のねらい】

- ・主体的に考え、表現できる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「聞く」「話す」「書く」を意識させ、ペアやグループ活動を活発に行い、児童生徒の思考をつなげる授業を実践する。これを通して、考えを広げたり、深めたりして、論理的に思考し、表現できる力を付けさせる。 ・パワーアップノート等を活用し、家庭学習の質の向上を図る。 ・昨年度実施した取組の継続と日常化を図る。【挨拶の後に礼、パワーアップノートの活用、家庭学習強調週間の実施、調査結果などを活用した学業指導】
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」「話す」については、「聞き方のコツ」「話し方のコツ」や振り返りの仕方などについて、各校で行っているものを共有できた。「読む」「書く」については、各校で「下野市新聞の日」に、毎回新聞をまとめるワークシートを配付し、内容を簡潔にまとめる活動を共通して行った。また、石橋中の生徒が書いたワークシートを小学校に送り、交流するとともに、小学生の参考となった。 ・ペアやグループ学習を行うなど、話し合う活動が活発になった。その結果、4月と比べ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童生徒の割合が増えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「聞く」「話す」「書く」の指導で工夫している点についてのアンケートを各校で行い、まとめた。これを共有して、今後一人ひとりの教師が指導力を向上をさせていきたい。 ・iPadを活用した授業の研究を行う。iPadが児童生徒の一人に一台配付されている中で、ICTを活用した授業を促進させ、児童生徒が主体的に学び、グループやクラスで意見を交流させ、最後は自分としての意見をプレゼンテーションしていくような授業を小中で一貫して行っていくことが課題。

<道徳推進部会>

【児童生徒の実態】

- ・素直で穏やかな児童生徒である。
- ・道徳の授業に関しては、友達の意見を聞いて、受け入れている様子が見られる。また、自分の意見を言うことにも抵抗がなくなってきた。

【部会のねらい】

- ・地域への愛着をもち、社会に貢献できる。
- ・自己開示をしながら自分を見つめ、考えを表現（話す・書く）することができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・心を育てる月間の各校での実施 【勤労、公共の精神 低学年C－（12） 中学年C－（13） 高学年C－（14） 中学校 社会参画、公共の精神C－（12）C－（13）】 ・道徳の授業の指導の工夫 ・「ふるさととちぎの心 栃木県道徳教育郷土資料」の活用 ・見取りや評価についての情報交換
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「心を育てる月間」では、内容項目を重点化し、授業を実施するとともに、児童生徒の考えを累積・掲示することにより、考えを深めさせることができた。 ・奉仕活動や、学級力アンケートなどと関連付けながら実施することで、児童生徒の意識を高めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインに描いた児童生徒像に近づけるよう、道徳の内容項目を柔軟に扱って実施する。 ・実施内容や時期、他の部会との連携について、プロジェクト委員部会などと調整を図ることにより、重点期間を集中するなどして、負担加重や「〇〇期間」の連続を避け、毎年継続しやすいものにしていく。



<児童生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

・ここ数年、「あいさつ」について取り組み、徐々に成果は上がってきた。ただ、「学校内ではできるが、学校外ではなかなかできていない。」という声もあった。コロナ禍が続く中、地域の行事に参加する機会が減り、地域とのつながりが薄れてきていることが一要因と考えられる。また、小学校では児童の主体性を課題に挙げている学校が多い。

【部会のねらい】

・主体的に行動し、地域に貢献することができる

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組					
成果					
課題					

<特別支援・教育相談部会>

【児童生徒の実態】

・学校生活、集団生活に適應して生活できている児童生徒が多い。
・不登校、不登校気味の児童生徒や特別な支援を要する児童生徒が年々増加している。

【部会のねらい】

・自分の特性を知り、よさを伸ばそうと進んで行動することができる。

	視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組					
成果					
課題					



【リモート交流会の様子】



【研修会の様子】

<特別活動部会>

【児童生徒の実態】

- ・小学校・・・明るく素直な児童が多い。人間関係を構築することが苦手な児童を支援することが課題である。
- ・中学校・・・礼儀正しく素直な生徒が多い。自己肯定感が低く、つながりが弱い傾向の生徒を支えることが課題である。

【部会のねらい】

- ・自己肯定感を高めるために今年度まで居がいのある学級づくりを行ってきた。その手段として「学級力アンケート」を活用し、児童生徒が明日も行きたくなる学級を目指し、児童生徒同士でつながりを深めてきた。今年度は「学級力アンケート」を継続し、キャリアパスポートの更なる充実を活用して、児童・生徒同士が、安心してつながりをもつことができるようにする。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様に学級力アンケートを年2回実施し、自分の学級に居場所をつくれるようにする。 ・石橋中学校区の小中学校でキャリアパスポートの共有、情報交換を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 自分の姿の変化が分かるようにする。 キャリアパスポートを振り返る時間を確保する。 </div> ・子ども未来プロジェクトとの連携
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学級力アンケートを実施したことにより、担任・生徒ともに学級の課題を把握しやすくなり、またリーダーを中心に解決していこうと自治的な動きが出てきた。クラスでアンケートをもとに十分な対話の時間が確保され、クラスの問題点についての解決策を自己決定することで多くの成長を見ることができた。 ・生徒自身が昨年度の自分の姿との比較を通して、自己の成長を確認し、自己有用感を高めることができた。 ・生徒の中から出てきた意見をもとに、全校を巻き込んでいじめについての話合いの時間を確保した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学級力アンケートを活用するためには、年間指導計画への位置付けが必要である。各校で、どの程度学級活動の年間指導計画に入れていくか足並みを揃えていけるとよい。 ・昨年度の取組として、学級力アンケートの質問項目自体を各学級で手直ししている。そのため、小中で内容を揃えることは難しく、学級力アンケートを用いた小中連携自体が困難な面があった。



【学級の問題点について話し合っている様子】



【いじめについて話し合っている様子】

<体力増進部会>

【児童生徒の実態】

- ・新体力テストの結果において全体的に全国平均を下回る傾向にある。
- ・運動する・しない児童生徒の二極化が顕著である。
(運動しない児童生徒は、運動習慣が身に付いていなかったり、運動に苦手意識をもっていたりする場合が多い)

【部会のねらい】

- ・児童生徒が「運動が楽しい」「運動したい」という関心意欲をもつことができる。
- ・運動に親しむ習慣を身に付けさせる。(外で遊びたくなるような工夫・教科体育での運動量の確保・業間運動や遊具の工夫)
- ・握力の向上を重点課題とし、児童生徒の体力を向上させる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や技能・体力の二極化を解消するために、教科体育や業間活動を工夫し、児童生徒の体力(特に握力・走力・投力)が向上できるような取組を行い、「運動したい」という意欲を高める。 ・運動に親しむ習慣を身に付けるために、休み時間における児童生徒の外遊びの機会を増やすよう、教員が外での運動を児童生徒に呼び掛けたり、教員自ら外遊びに加わって運動する楽しさを共有したりする。 ・「握力の向上」を重点課題とし、「紅白玉握り」や「鉄棒ぶら下がり」などを各校で継続して行い、10月に再度握力を計測してその成果を確認する。 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や業間活動において、各学校で運動の機会や場の設定を工夫して体力向上に努めることができた。 ・コロナ禍ということもあり、自由に外遊びができないことが多かったが、教員が外遊びに加わることで、外遊びに積極的でない児童も外に行くきっかけづくりができた。また、体育館を開放することで、より多くの児童が体を動かすことができた。 ・握力を高める運動を継続して実施した結果、全ての学年で前回より握力が向上した。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事においては、多くの児童生徒が意欲的に参加するが、依然として休み時間には、外遊びに積極的な児童生徒とそうでない児童の二極化が見られる。 ・握力の向上については、取組の効果か、成長によるものかの判断が難しいため、継続して実施し、経年変化を分析する必要がある。 			

<健康増進・食育部会>

【児童生徒の実態】

- ・ゲーム等のメディア機器を長時間使用することで、生活習慣が乱れる傾向がある。
- ・ゲーム依存による不登校児童生徒もいる。
- ・市の課題である朝食摂取状況について、石橋中学校区の「毎日食べる」割合は87.0%、「朝食とおかず」を食べている割合は68.3%と、前年度より改善傾向にある。(令和3年10月調査)

【部会のねらい】

- ・望ましい生活習慣を確立することができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアアンケートを実施し、メディアの使用状況の実態把握を行う。 ・児童生徒自身で、自らの健康生活を振り返り、正しい生活習慣の確立を目指す指導を行う。 ・小・中学校全校(小学4年生または5年生、中学1年生を想定)で、学級活動における朝食指導を実施する。 ・給食週間に、小・中学校全校で「朝食の大切さ」についての食育指導を行う。 ・各校で共通して保健指導を行えるよう「いしばし元気っ子週間」を実施する。学習中やメディア使用時の「姿勢」、生活習慣の確立として必要な「朝食」についての指導資料を作成し、各校共通の指導を行う。特に「立腰」については、中学校区全体で意識高揚が図れるようにする。 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアに関するアンケートを実施したところ、どの学校においても「毎日メディアを使用する割合」が6割程度、「週3～4日、5～6日使用する割合」が2割程度であった。メディアを使用する中で、「頭痛」「目の痛み」等の健康被害を自覚している児童生徒の割合も高いことが確認できた。 ・小中一貫健康増進部会便りの「いしばし元気っ子だより」を発行し、家庭への啓発を行うことができた。 ・下野市で実施の朝食アンケートで、石橋中学校区全体として朝食喫食率が87.5%となり、昨年度の87.0%より、0.5%上昇した。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食指導において、学年の実態に応じた指導を行い、朝食自体の質の向上を図れるようにする。 ・「いしばし元気っ子週間」を定着させ、児童生徒自身で自らの健康生活を振り返ることができる指導を継続していく。 			



【立腰について指導している様子】

【成果と課題】

成果

- ペアやグループ学習等、話し合い活動の活発化
→「自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定的回答が80%以上
- 「心を育てる月間」の実施
→児童生徒の意識の向上
- リモート交流会の実施
→児童生徒の自己有用感の向上
- 「いしばし元気っ子週間」の実施
→朝食アンケートによる朝食喫食率の上昇
- ☆「心の教育」の充実に向けて、各部会における計画をそれぞれの学校で実施することができた。

課題

- ICT機器を活用した授業の促進
→教員一人一人の指導力の向上
- 学校間や学年による温度差
→実施時期や内容の検討が必要
- クリーン活動、学級力アンケートの実施
→年間指導計画への位置付け
- 握力を高める運動の継続実施
→経年変化の分析
- ☆教務部会による日程等の調整
→各部会における取組計画の実施時期や内容の調整